

## 農福連携

## 農 福 連 携 で 地 域 活 性 化 ！

## 活動の経緯

当地域において障害者施設を運営していたところ、就労の機会を求める障害者が多くいるにも関わらず、地域の主な産業である農業への就労はあまり進んでいない現状にあると感じていた。また、その農業も、当地域で盛んな果樹栽培が担い手不足や経営面積の減少により、限界にきていることを目の当たりにした。

このため、障害者施設として農業に本格的に取り組むことで、障害者と農家の課題解消を目指している。

## 活動の概要

地域のりんご園及び農地を賃借し、農作物（りんご、ニンニク）の栽培を行っている。また、障害者の自立を目指し、農業技術や販売手法の習得するための研修を実施している。



障害者が栽培したリンゴを高速道路PAで直売



にんにくの根切り作業風景

## 活動の成果、主な実績等

- 障害者の工賃を向上させるため、国の交付金等を活用し、畑や果樹園（りんご）を整備した。また、生産したにんにくの加工等を行える施設の整備を行い、生産物に付加価値を付ける体制を構築した。
- 障害者が、確かな技術を習得して将来的に自立できるよう、りんごの栽培やにんにくの加工について連携する団体等から指導を受け、技術の向上を目指すと共に、後継者等のいない農地の受け皿となることを目的としている。
- 地域農業をPRするため、生産した農作物等について、連携団体の指導・助言を得ながら、マルシェや高速道路のサービスエリアにおいて販売した。

本格的な取組は始まったばかりで、目に見える大きな成果が出ていないが、事業者として売上が増加したことで施設の利用者が増加した。また、自らが生産し販売まで携わることで障害者が生き生きと働くようになった。